

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] 温帯暖地の甘蔗栽培法の改善策

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一 (抄録) , Shimabukuro, Shun-ichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015124

温帯暖地の甘蔗栽培法の改善策

(稲留帯刀 1963 鹿大農学部 1~11)

- 1. 日本の温帯暖地の甘蔗作は、自由貿易化された今日の状態からすると、必ずしも適作とは云い難い。然しハワイを抱えながらルイジアナの甘蔗作が存作するアメリカのあることを参考にすることがある。
- 2. 奄美大島の甘蔗品種がN:Co310 に更新された今日では春植型を全廃して、新植を秋植とし、株出型

に転化せしめる栽培法をとりたい。

鹿児島県下の沿海地帯においては 9月中旬乃至10月中旬がよい。

- 3. 集約的な農業の営まれる温帯暖地の甘蔗栽培は多収良質を目指して集約化する必要がある。そのため畦巾を205cm、条間25cmとする。
- 4. 粒状固形肥料（日本肥糖糧KKのうちから粒状固形肥料）が好適する。枕崎市の一例によると、此区の原料蔗茎量は10アール当り 9吨以上であった。基肥6割、残りを翌春発芽前（3月中）に追肥として1回に施用する。（抄録・島袋 俊一）

項 目 調査年月日	ブリックス		蔗 糖 %	
	春 植	株 出	春 植	株 出
36. 12. 25	17.6	19.3	17.32	19.92
37. 1. 24	16.9	19.6	15.14	19.35